

授業に関する学生・教員交流会

1. 企画趣旨

授業に関する学生と教員交流会（以下、交流会）は、授業アンケート等ではわかりにくい学生からの直接的な声を聞くことを目的として、年に1回開催されている。

これまで、学生と教員の交流会においてから様々な意見が出され、学生の意見が授業改善に生かされてきたものの、大学側から取り組みの成果を交流会参加者と全学生にフィードバックする機会を十分に作れていなかった。

意見交換の成果が見えれば、学生が意見を伝えることに対してより前向きになり、「意見を言っても変わらないのでは」という無関心や迷いを払拭することが期待できる。そのため、本年度は、まず大学側の改善事例や学生の声を「見える化」することを重視し、学生から意見が届く実感や安心感を持てる環境を整えた上で参加を促すことを考えた。

2. 実施概要

(1) 実施事前準備

10月末から交流会で話し合われた内容を「見える化」するためのポスターを7号館2階のエレベーターホールに掲示した。今年度の「学生と教員の交流会」のテーマは、「わたしたちは、授業をもっと良くしたい!」とし、参加者を募ることとした。

参加者を募るポスター作製は、クリエイティブ同好会の学生に依頼した。ポスターはエレベーター等に掲示し、総合教育システム UNIPA からも告知を行った。

できる限り多くの学生に気軽に参加してもらうことや動線なども考えて、日程と会場を決めていった。

学生募集期間は、2025年11月13日～11月30日、募集方法は、メール告知とFD委員による声かけであった。

参加者を募集する途中の段階で、参加者が少ない学科については、学科のFD委員より個別に学生に声かけをした。学生参加者の目標は60名であったが、事前申込者学生は21名であった。

(2) 目的と方針

学年横断の意見交換と、総合科目・連携授業等の情報可視化による参加動機づけ、意見を次の改善アクションへつなぐ「責任ある発言」ができるように、重点課題の宣言をすることとした。

(3) 実施の様子

【1】実施日時および実施方法

実施時期：2025年12月4日（木）14：40～16：10

実施場所：7号館1階カフェテリア

形式：自由参加型 他学科の人と交流できるように学科混合の3グループに分け、FD委員や当日参加した教員、これまでに参加経験のある学生がファシリテートをした。

参加学生：主対象は2～3年生であったが、1年から4年まで全学年が集まった。

自由参加・飛び入り可。事前人数は固定せず、当日カフェテリアなどで誘も実施したところ、当日参加の学生が6名いた。

健康栄養学科 6 名、食物栄養学科 3 名、食品開発学科 1 名、人間福祉学科 7 名、児童教育学科 3 名、社会情報デザイン学科 5 名、文芸文化学科 2 名の学生計 27 名が参加した。

参加教員：全学科の FD 委員と有志の先生方 13 名が参加した。

テーマ：「わたしたちは、授業をもっと良くしたい！」

否定的な意見よりも「こうしたらもっと良くなる」という視点を重視し、学生の建設的な意見を促進した。

【2】プログラム

1	開会あいさつ 趣旨説明	10分
2	グループでの意見交換	50分
3	全体発表（3グループ×各5分）	15分
4	今年の重点課題の宣言	5分
5	閉会挨拶 参加者アンケート	10分

【3】参加学生およびグループ編成

- ・所属学科の異なる編成で3グループを編成し、各グループに教員が2名程度参加する。

【4】グループでの意見交換の結果

以下より、各グループからの意見を示す。

- ① 授業中のリフレッシュが欲しい
座学が多いとどうしても眠くなってしまう。
ワークシートや動画形式など、90分の授業の中で長期的に集中力が持てるような工夫をしてほしい。
- ② 特定の学科になるが、実習があるところでは、実習先を柔軟に選ばせてほしい。
希望通り実習させてほしい。
- ③ 「眠い授業」とはどんな授業だろう？ ⇒一方的に聞く授業
それに対して、「楽しい授業」は、主体的な学び。フィールドワークなど「体験する」と楽しい。眠い授業では体操や休憩時間を挟んだらよいのではないか。
- ④ 課題がさらっと出されていて気づかないことがある
先生方によっては事前のお知らせもなく、授業中に課題を一言言ってそのまま終わってしまうというケースがある。せめてメールで連絡したり、授業内でもう少しお知らせをしてほしい。
- ⑤ ワーク（課題）の提出期限の有無について
「期限があるけど、理解を試しているから特に守らなくてもいいよ」というのがある。
期限の意味があるのか！？
- ⑥ グループワークについて
メンバーが固定しすぎて、新鮮味がないという意見が出た。グループワークのメンバーは定期的にシャッフルしてほしい。

- ⑦ 中間試験や試験などのフィードバックがほしい。
レポートや試験などのフィードバックがないと自分の解答があっていたのか間違っていたのか、どこを改善していいのかがわからない。フィードバックは欲しい。
- ⑧ 履修の人数に教室が合っていない。
狭い教室で座席を指定されると狭くて受けづらい。
教務課の方々に検討をしていただいて、教室の割り振りをしてほしい。
- ⑨ 補講になる場合の振替日程について
平日以外の土日に指定されるということがある。土日に指定されるのは、問題ないが、もう少し早めに教えてほしい。
- ⑩ 授業で当たる人を均等にしてほしい。いつも同じ人に偏って当たってしまう。
- ⑪ テキストを買ってと言われたのに結局使わずに終わる。それなりに高いテキストを買ったのに一度も使わなかった。
- ⑫ 自分の好きな分野や勉強したい分野に関する授業は開講してほしい。楽しい授業は身が入るからより深く、広く、開講してほしい。
- ⑬ UNIPA（総合教育システム）の使い方に慣れてない先生もいる。
授業を履修してない学生にも「あなた落ちました」のようなメールが届くことがある。びっくりしてしまうので、UNIPAの使い方をもう少し大学の方でサポートしてほしい。
- ⑭ ゼミ担や担任との関わりの濃さが学科によって違いがある
基本的には面談などがあるが、ない学科もあるようだ。もちろん主体性は大事だけど、（関わりが少ない学科は）もう少しゼミ担の方から関わってくれたら嬉しい。
- ⑮ 卒論に関して
卒論とゼミはほとんどの学科が必修だが、選択制のところもある。大学は、研究機関だから全学科に卒論はあっていいのではないか。
卒論の提出期限に関して期限は学科によって違いがあるのは仕方ないが、その学科に決められた期限を過ぎても、ゼミによっては受け取ってもらえるというケースは一切なしにするのがよい。
- ⑯ 前年度のアンケートの内容が反映されていないケースがあると後輩から聞いている。

グループの意見交換後に、学生と教員が今年度の重点課題を検討し、「**授業に主体的に取り組んだ**」という実感を持ち、「**自分事**」にすることを目指して、**教員と学生の皆さんで双方向の授業をつくっていきましょう！**と重点課題の宣言を行った。

【5】事後アンケート

学生（回答 25 名）

○交流会の参加について

「有意義だった」と回答した人が 88%であった。

○同じグループの学生教員に意見を伝えられたか

「伝えられた」と回答した人が 84%であった。

○今後も実施したほうが良いと思うか

「実施した方が良い」と回答した人が96%であった。

○自由記述

素直に話すことができ楽しかったです。他の学科とも交流できて良かったです。
伝えることで変わるなら伝えていこうと思った
楽しい授業について他学科の方、先生方とお話出来てとても有意義な時間になりました。
グループになったことで自分の意見を発言することができて良かったです！
学科や学年は違えど、授業に対する改善点や考え方には共通するものが多く、こういった機会を通して授業がより良くなればいいと思いました。
他の学科のことも聞くことができ良かったです。この交流会での内容を学内へより広められたらいいなと思います。
例年よりもお菓子が多かったのも学生が集まった要因ではないかと思います。授業に関する意見を忌憚なく提言できるので、大変貴重な機会だと毎年感じておりました。
学科内でも学科外でも授業に対して抱いていた共通の思いがあれば、新たな発見にもなる思いを聞くことができ大変大きな学びを得られた。特に、学生の課題に対するフィードバックが欲しい、学生が主体的に学べる授業の構成を作りたいという意見は反映させて欲しいなと考えた。
ゼミが必修ではないので、ゼミに入っていない人と担任の関わりがもっとほしい。コースが違う先生だと授業での関わりがないのでその場合面談などをしっかりしてほしい)と思いました。
みんなズバズバ思ったことを言っていていいなと思いました もし来年も機会があればまた参加したいと思いました また、4年生の方がリーダーをしてくれて、ちゃんと時間通り回していたり、みんなに話が行くようにして自分もこんな風になりたいなと思いました 自分の考えを伝える良い機会とともに、自分も考えさせられたり、学ぶ機会になれて良かったです。
普段授業に対して思っていることを言う機会がないので言えてよかった。
段々意見が出るようになってきて良かったです。活発に意見が出せる学生のみが今回集まった印象だったので、意見をあまり自分からは言わない学生も参加できたらより多様な意見が出るかと思います。
先生の意見が多すぎた。学生の声が聞きたい会なのであれば、先生の意見は最小限でいいと思った。
自分と異なる学科の方の話を聞いて良かったです。共通する話題もあり、自分達だけじゃないんだと分かりました。私は人見知りで、上手く話せない場面もありましたが、先輩方が優しく聞いてくれたので、雰囲気も良く楽しかったです。また機会があれば、ぜひ参加したいと思います。

教員回答（7名）

○本日の交流会の参加について

「有意義だった」と回答した人が85%であった。

○学生の直接的な声を聞くことかできたか

「できた」と回答した人が71%であった。

○学生と教員の交流会は今後も実施した方が良いか

「実施した方が良い」と回答した人が85%であった。

○今後の交流会のテーマや、交流会の話し合い結果を学内で共有する方法など、次回開催に向けてのアイデアについて

カフェテリアで飛び入り参加ができるのは良いと思ったので、今後もカフェテリアで開催するのがよいのではないかと。

大学における「楽しい」授業、講義とは何か。内容や形式、形態、難易度などについて聞いてみたいです。

今後の改善点として、事前アンケートを活用し、学生自身がテーマや質問を選べる形式にしたり、話したいトピックが共通する学生同士をグループ化するなどの工夫を行うことで、より課題に沿った対話ができると感じました。また、事前に「どんな話をしたいか」「どんな課題があるか」などの議題を挙げる機会を設けておくと、学生主体の議論でも意見が出やすくなると思いました。

学生に皆の意見を箇条書きでもよいのでメモを取った方がよいと助言した。そうしたメモなどから記録を作成し教員間で共有した方がよい。

少なくとも参加学生のメモは共有してほしい。このような交流会はもっと頻繁に行った方がよい。教員の中には日常的に学生の不満や要望を聞いている方もいるはずなので、情報を共有する仕組みがあるとよい。

○ご意見・ご感想・改善点など

告知がもう少しはやいと、参加者が集まりやすいと思います。

今回、FD委員以外の先生方に参加していただき、かしこまりすぎなくて、よい意見交換ができたと考えます。

学生さんたちの意欲、熱量に正直圧倒されました。非常に有意義でした。応えなければ、応えるにはどうしたらいいだろう、と改めて真剣に考える大変貴重な機会でした。具体的なアイデアがなく恐縮ですが、多くの先生方に参加いただきたいと強く思いました（あの規模感だったからこそ、という面もあるかもしれませんが）

初めて交流会に参加いたしました。学生の皆さんが率直にご意見やお考えを共有していただき、大変有意義な時間となりました。他学科の学生と直接対話できる機会は日頃多くないため、それぞれの学科における取り組みや課題を伺うことができ、非常に参考になりました。本交流会では、学生5～6名に対して教員1名程度の構成でしたが、教員の参加をもう少し増やすことで、より幅広い学科との交流や活発な意見交換が期待できるのではないかと感じました。また、職員の方々の視点も加わることで、学生支援に関する議論が一層深まると考えます。学内の学びや環境改善につながる大変貴重な機会であったと感じております。今後も実施される場合は積極的に参加させていただきます。

対応が難しい場合は別だがすぐに対応可能なことは対応し、早期に参加者にフィードバックを返した方がよいのではないかと。

指摘があったことは放置せず、早急に改善する仕組みが必要である。民間企業のように、学生が問題を指摘できる内部通報制度や学内・学外窓口はあった方がよい。

3. まとめ

学生と教員の交流会後に、学生の望むよりよい授業を探るため、2025年度教員表彰された3名の先生方にインタビューをした。また、学生と教員の交流会で出された意見の具体的内容についてより深く聞くために、当日ファシリテーターをしてくれた学生にインタビューを行った。

表彰された教員から挙げられた、学生たちが望むよりよい授業を行うための工夫は以下の6点であった。

- ① 授業設計へ学生意見を反映すること
- ② 学生と教員が対話するための授業のフィードバック等
- ③ 学生の主体性を引き出すためのグループワークの充実等
- ④ 学生による相互評価等、多様な評価方法の導入
- ⑤ 授業時のリアルタイムフィードバックツールの導入等のテクノロジーの活用
- ⑥ 心理的安全性の確保

ファシリテーターを務めた学生からは、以下の提案があった。

- ① 総合教育システム（UNIPA）運用ルールの明確化
- ② 学科横断での情報共有・調整
- ③ 担任制度について

総合教育システムは、使い方によっては学生・教員双方にとってよりよい授業につなげることができるが、学生の意見からは使用方法に課題があることがうかがえる。学内連絡に一部ではあるが混乱があり、連絡時には、学内連絡のテンプレートやルールなどを周知する必要があるようだ。

総合教育システムの利用方法については、2026年2月17日に、「コース学習」「プロジェクト管理」「学習リソース」を中心に総合教育システム活用に関する勉強会を教務課主体で実施した。

評価方法がシラバスと違うということも学生から聞かれており、やむなく変更する場合の手続き等についても必須化する必要がある。

第一次相談機能としての担任制度についても十分でないという意見が聞かれているため、学生支援課とも連携した勉強会等が必要なのではないだろうか。

学生と教員の交流会については学生の参加に課題がある。今年度は募集期間が短く、参加者を増やすことが難しかった。今後よりよい学生と教員の交流会に向けて、リピーターを増やすことと新しい参加者を増やす方法が必要である。

今回は、「学生と教員の交流会」の実施と成果報告で終わりにせず、表彰を受けた教員による良い授業実践例や、授業改善に向けた学生の希望をさらに深く聞き取ったことにより、FD委員と教務課職員で具体例の共通認識を持てたことが成果の一つである。大学全体の授業の質を上げていくためには、継続して、現状を共有し、できることから早急に改善していく必要がある。今後、交流会を前期の終わり頃に実施するなどもっと早い時期に開催すれば、学生からあがった意見をもとに、授業改善に具体的に取り組む時間が生み出しやすくなる。

学生と教員の交流会で上げられた内容等を次年度のFD委員会で全体的に協議し、様々なFDのイベントに結びつけるということも考えることも可能になるだろう。

今後も、学生たちの「学びたい気持ち」に沿えるように、学生、事務の方々、教員が協働してよ

りよい授業づくりを進めたい。

【資料】

発行日: 2025年11月24日



NEWS LETTER Vol. 1

学生と教員の対話から 生まれる授業改善

十文字学園女子大学

◆ 学生の声で授業を変える！— FD学生交流会から生まれる“学びの進化” —
 毎年恒例となった「FD学生交流会」は、十文字学園女子大学の学びをより良くするための大切な時間です。学生と教員が率直に意見を交わしながら、授業への想いや日々の学び方を語り合う場。そこから見えてきた“学生の声”が、実際の授業改善に生かされています。

学生と教員がつくる、新しい学びのかたち

「授業アンケートでは書けない本音を伝えられる」—そんな声から始まった交流会。学生が感じている“もっとこうなったらいいな”を共有し、教員がそれを受け止めて次の授業へ反映しています。

2024年度のテーマは、「私たちはこんな授業が受けたい！」
 学生たちはドイツの焼き菓子“シュトレン”を囲みながら、理想の授業像について語り合いました。



学生さんから一言

自分たちの学びをもっと自由に、楽しく、つなげたい！

2022年度

2023年度

学科を越えて広がる学び

これからの授業の在り方を考えよう

- 学科を越えた交流が刺激になった！ 他学科の授業の工夫や学び方を知り、新しい視点が得られた。
- 授業形態の工夫を求める声！ 対面・オンラインそれぞれの良さを活かし、学びやすい授業にしたい。
- 学生の意見を授業に反映してほしい！ 交流会で出た意見を今後の授業改善につなげてほしいという要望が多かった。

授業におけるICTの有効な活用方法を考えよう

- 学科を越えた交流で視野が広がった！ 専門や授業内容の違いを知ることで、新しい発想や気づきが得られた。
- ICT活用のルールや方法の統一を希望！ 授業によってスマホ・PC利用の可否や扱いが異なり、戸惑うことがある。授業ごとの基準を明確にしてほしいとの声。
- 学生の意見を授業改善に反映してほしい！ ICTを使った学び方に関しても、学生の美観や提案を積極的に取り入れてほしい。

今年度の授業が進化中！

昨年度の学生交流会で生まれた「他学科ともっと関わりたい」という声を受けて、今年度は学科を超えた合同授業をスタートしました！
 異なる分野の学生と一緒に考え、語り合うことで、新しい発想や学びの楽しさが生まれています。



総合科目「経営者と考える未来の会社と働き方」
 2025年度後期月曜日3限目
 総合科目は、1年生から4年生どの学科の学生さんも受講できます。

探せば見つかる、自分の興味を引く授業

今年も開催！

テーマ 「わたしたちは授業をもっと良くしたい！～今、わたしができること～」
 開催日 2025年12月4日（木）4限目
 場所 カフェテリア

図1 これまでの学生と教員の交流会の成果報告ポスター



図2 参加者募集のチラシ



図3 学生と教員の交流会の様子①



図4 学生と教員の交流会の様子②



図5 学生と教員の交流会の様子③



図6 学生と教員の交流会の様子④



図7 学生と教員の交流会の様子⑤